

患者の人生最期の場面に役立てたい

神谷郁子 掛川市立総合病院看護部長
小林光恵 エンゼルメイク研究会代表

エンゼルメイクセット

限定販売

フルセット 52500 円(税込)

〈提供元・問い合わせ先〉

マーシュ・フィールド株式会社

〒102-8370 千代田区四番町 6-11

TEL. 0120-85-3171(フリーダイヤル)

〈企画・監修〉

エンゼルメイク研究会

〒150-0013 渋谷区恵比寿 1-11-1

エビス小林ビル 22

FAX. 03-5789-4190

E-mail stay2@interlink.or.jp



死体現象により刻々と変化していくご遺体の特徴をふまえた看取りの場面にふさわしい構成、がエンゼルメイクセットのおもな開発方針です。セットには、各化粧品の使用方のほかに基本手順をカラー写真で紹介した冊子も入れました。年数回の限定発売ですが、常時御注文に対応できるシステムとなっています。

●「エンゼルメイクセット」の内容

〔スキンケア〕 マッサージクリーム／乳液

〔メイクアップ〕 クリームファンデーション 12 色(パレット式)／リキッドファンデーション 3 色／フェイスパウダ

ー 1 色／アイブロウ 2 色／アイライナー 2 色／マスカラ 1 色／チークカラー 3 色／カラーパレット(リップカラー 28 色・アイカラー 28 色)

〔メイク小物〕 スポンジ 10 個／2 重まぶた用のり(閉眼させるために使用)1 個／マニキュア(透明ピンク)／ブラシセット 6 本(眉こーム／アイブロウ／アイカラー／リップ／チーク／フェイス用)

〔BOX〕 内部多機能タイプ・黒 持ち運び取っ手付き

〔使用説明書〕 各化粧品の使い方やエンゼルメイクのポイントなどマニュアル 2 種

■患者への最期の看護

当院では、亡くなった患者の死後の処置は、看護師 2 人で、あるいは家族に声をかけ、希望があれば一緒に行なっています。従来より、温湯で丁寧に全身清拭をし、整髪をして薄化粧を施していました。この化粧をするときの化粧品は、不要品の寄せ集めのお粗末な物でした。患者の尊厳ある最期の姿を整えるのに、これでよいのかと思いつつも、充分でない化粧品で個々の看護師が工夫しながら行なっていました。

このような現状のなか、筆者はエンゼルメイクの研究に取り組んでいるある病院の副看護部長から、エンゼルメイクについて次のような内容を紹介されました。「お亡くなりになられた患者さんを、顔に掛け布をしないで生きているときと同じようにストレッチャーに乗せてシャワー室にお連れします。髪をシャンプーし、全身に石鹸をつけてシャワー浴を行ない、きれいにします。そして、メイク前のお顔のマッサージをしてから、その患者さんに合ったメイクをします。患者さんがお元気だった頃のお顔の色、口唇の色にできるだけ近づけます。黄疸がある場合には黄疸色を消すメイクを、貧血がある場合には顔色がほのかに明るくなるようにと、ご家族のご意見を取り入れながら

行ないます。メイクに使用する化粧品は、いろいろな種類の物をセットしてあり、エンゼルメイクセットとして購入できます」という内容でした。

筆者は以前、ある本に「人は死んでしまえば物体ととらえる」と書かれているのを読み、大変ショックを覚え、たとえそういう考え方ができるとしても、病院の中にいる間は“物体”ではない、“患者様”だとその言葉を否定していました。副看護部長の話は、筆者の心にスーッと入り込み、これぞまさしく亡くなった患者への最後の看護だと思えたのでした。そして、忙しい副看護部長に看護師全員を対象に「エンゼルメイクについて」と題して講演をお願いし、多くの看護師の共感を得ることができました。以後、当院で関心のある看護師は、その病院のエンゼルメイク委員会に出席させていただき、エンゼルメイクに対する知識・技術を深め、少しずつ当院に導入しています。

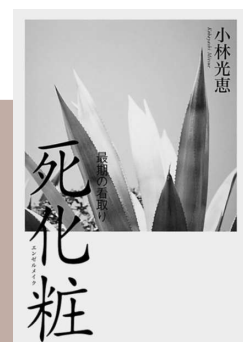
■エンゼルメイクの過程を大事に

当院の五代院長が退官される際、看護部に基金として寄付をしてくださり、その中より、エンゼルメイクセットを 5 セット購入しました。寄付で購入したセットを、患者の人生最後となる場面に役立てることで、多くの遺族の方々に慰めと心の安らぎを提供する場になっていることは、五代院

死化粧 エンゼルメイク 最期の看取り

小林光恵 著

四六判, 256 ページ
定価 1575 円(本体 1500 円+税 5%)
宝島社 TEL. 03-3234-4621



長も喜んでいるのではないかと思います。またたとえ基金が無くても、理財係と交渉を重ね、エンゼルメイクの必要性を理解してもらいながら、病院での購入を実現したであろうと思っています(その時には一度にたくさんではなく、毎年徐々に増やしていくという方法になったかとは思いますが……)。

エンゼルメイクをスタートして日も浅く、スタッフの意識の変化はまだまだかと思いますが、行なっている部署の看護師のやる気は確実に強く広まってきており、うれしい限りです。今後、その時々の業務量を考慮し、無理強いしないで、徐々にエンゼルメイクが浸透し発展していけばと思います。

エンゼルメイクを施す看護師には、その過程を大事にしてもらいたいと思います。提供した看護を振り返って、至らなかったことを詫びながら、心を込めて最後の看護を提供してほしいと思います。人間の命の終わりに対して、心からの哀悼の気持ちを込めて患者とその家族への対応をしてほしいと思います。このエンゼルメイクを通して新たな看護観が育まれるのではないかと期待しています。

(神谷郁子)

のなかで何よりも大きな発見は、エンゼルメイクが、亡くなった患者の家族にとって貴重な看取りの場面になりうるということです。その点を多くの方に伝えたい衝動にかられ、臨床から寄せられた実話をヒントに小説『死化粧(エンゼルメイク)——最期の看取り』を家族の視点で描きました。エンゼルメイクの大切さを伝えるために職場の事務部門の方にこの一冊を渡したところ、その後大きな理解と協力が得られたと、ある看護職の方から連絡があり、大変うれしく思っています。

なおエンゼルメイク研究会主宰の講習会およびセミナーに参加された看護職のみなさんが、それぞれの職場や地域でエンゼルメイクに関する積極的な取り組みを始めています。

(小林光恵)

■『死化粧エンゼルメイク——最期の看取り』を執筆して

最期の顔を大切なものと考えたうえで、その人らしい容貌・装いに整えるケア全般のことを「エンゼルメイク」と呼ぶことにし、2001(平成13)年1月にエンゼルメイクの充実を目的としたエンゼルメイク研究会を設立し、活動してきました。そ